The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	2012年度　意匠学会論文賞選考結果報告
Author(s)	横川, 公子
Citation	デザイン理論. 2013, 62, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/56385
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

2012年度　意匠学会論文賞選考結果報告

意匠学会論文賞選考委員会
委員長　横　川　公　子

2012年度『デザイン理論』第59号，第60号の論文賞選考結果が下記のようになりましたので，結果及び経緯をご報告いたします。

1．2012年度論文賞受賞論文

前﨑信也氏

「明治期における清国向け日本陶磁器（1)」

2．授賞理由

受賞論文は，明治・大正期にかけて世界の陶磁器市場を席巻した日本陶磁器の中で，中国への輸出陶磁器に注目したものである。

関連する先行研究では，特に近代陶磁研究，ジャポニスム研究，万国博覧会関連の研究において，明治期の陶磁器産業がいかに近代化・西洋化を果たし，欧米で享受されたかを解明することに重点が置かれており，こうした欧米向け製品についてはよく知られている。それに対して本論文においては，最盛期には米国に次ぐ輸出量に達した清国向けの製品が生産された様子を，文献資料をもとに，その時期や生産量や分類などを丁寧に読み解き，明らかにしている。

近代以降の輸出陶磁器の動向について，欧米との関係ではなく，今まで注目されてこなかった中国への輸出陶磁器の存在を取り上げたことは注目に値する。同時にこのことは，従来，朝鮮半島や中国大陸との関係，とくに中国陶器との距離の置かれ方に注目して展開されてきた日本陶磁史の延長上で，必然的に照準を合わせるべき課題であり，その意義は大きいと思われる。

いまだまとまったコレクションや証拠となる写真などのない初期的研究で，地味な内容ながら，今後，明治期のアジアに対する輸出産業研究のひとつの指標になっていく可能性をも見ることができる。具体的な制作品への注目による今後への取り組みが大いに期待される。

以上のように，前﨑信也氏による論文「明治期における清国向け日本陶磁器（1)」を，輸出陶磁器の歴史に関する優れた知見を提案した論考として，2012年度学会賞論文賞該当

と評価いたします。

３．選考経緯

本論文賞は，『デザイン理論』第59号，第60号を対象とし，前年度までの選考方法に則って選考されました。すなわち，第一次選考として，各選考委員が上位５位までの論文を選出しました。１位５点，２位４点，３位３点，４位２点，５位１点と配点して，選考委員による順位づけを点数化し集計しました。この集計結果と各選考委員からの選考理由に鑑み再度検討し，最終結果を絞り込みました。

俎上に挙げられた論文は，対象論文11編のうち７編であり，選考委員全員が一致して推薦した論考はありません。３者による推薦論文が３編あり，１位15点が１編，２位11点が１編，３位10点が１篇となりました。

１位と２位以下の得点差は明快であり，１位該当論文を必然的に論文賞に選定することに異論はないと思われます。１位の前﨑信也氏の論考「明治期における清国向け日本陶磁器（1)」は受賞理由に述べるように大変優れたものであり，本論稿を含め，今後の取り組みは明治期の陶磁器のみならず輸出産業研究の一つの指標になると思われる貴重な取り組みと思われます。但し，内容の上で対象課題を展望する初期的部分に当たる中間的な見解を述べたものであり，次への展開を拝見してから受賞対象とすることでもよいのではないかとの討論もありましたが，今後への期待を充分抱かせてくれる論考として論文賞に推薦いたしました。